



# シングルレバー混合栓 (汚れ隠しプレートつき)

## 取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。  
また、本書は別紙「安全上のご注意」とあわせてご使用ください。

このたびは、当社製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

### 製品同梱明細

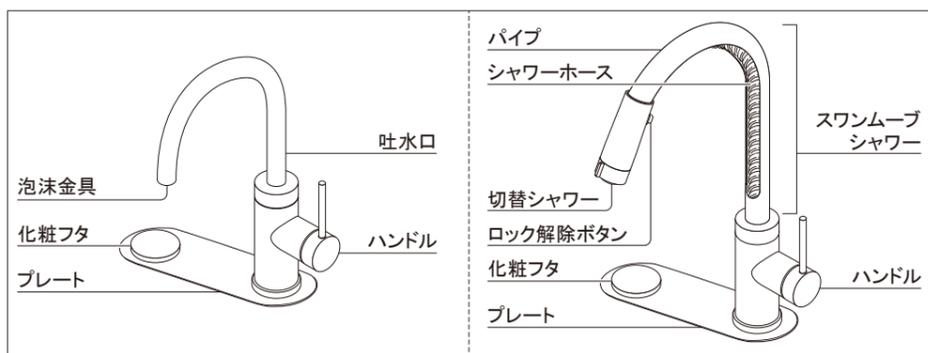
#### 共通同梱部材

- 水栓本体 ●ジョイント金具・クリップセット(各2個) ●六角レンチ(対辺2.5ミリ) ●化粧フタ ●プレート
- 取扱施工説明書 ●安全上のご注意 ●保証書

#### 製品の仕様によって変わるもの

- 吐水口 \*一部スワンムーブシャワー付きの吐水口

### 各部のなまえ

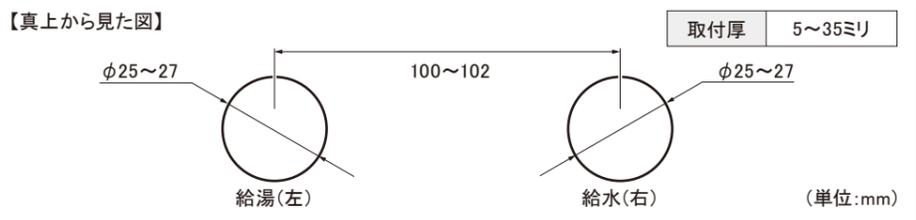


\*品番によって図と製品の形状が一部異なります。

### 施工の前に

#### 施工条件

取付穴が以下の取付穴径・ピッチで開いていることをご確認ください。



#### 準備するもの



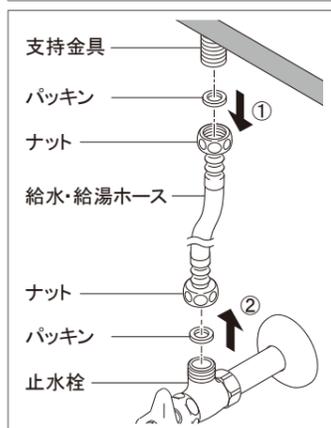
- \*施工時は左記に加えて、
- モンキーレンチ
- 立水栓取付工具
- モンキーレンチ
- \*その他、施工に必要な配管部材等は別途ご準備ください。

#### 既設水栓を取外します。

数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、止水栓または元栓を閉じて取付作業を行ってください。

#### 【作業に必要な工具】

- 立カラン締め
- モンキーレンチ

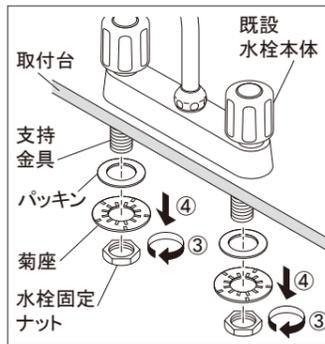


- ① 既設水栓の支持金具から給水・給湯ホースと古いパッキンを取外します。
- ② 止水栓から給水・給湯ホースと古いパッキンを取外します。

**注意** 配管内に水が残っている恐れがあります。配管の下にバケツ等を置き、周囲のものを濡らさないようご注意ください。

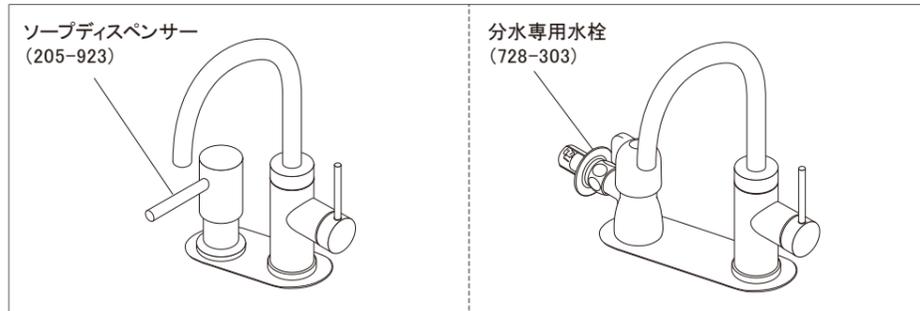
### 施工の前に(つづき)

#### 既設水栓を取外します。(つづき)



- ③ 支持金具から水栓固定ナットを取外します。
- ④ 支持金具から菊座・パッキンを取外し、取付台座から既設水栓本体を取外します。
- ⑤ 取付穴の周囲を掃除します。

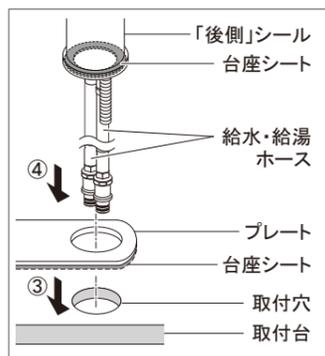
### 施工例



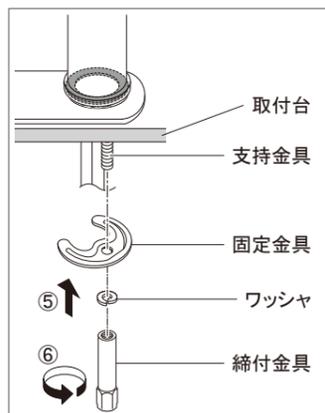
化粧フタを取外し、別売のソープディスペンサー(205-923)や分水専用水栓(728-303)を取付けることもできます。

### 施工方法

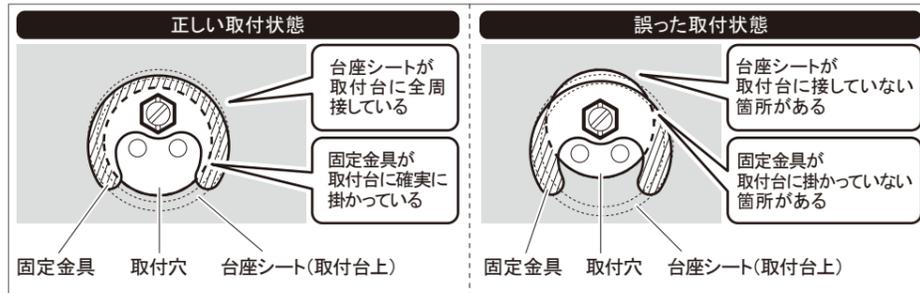
#### 1. 水栓本体を取付けます。



- ① 水栓本体を設置する取付穴の穴径を確認し、穴周囲が汚れていないか確認します。
- ② 支持金具から締付金具・ワッシャ・固定金具を取外します。  
\*部品が別袋に入っている場合は、この作業は必要ありません。
- ③ プレートの底部に台座シートが付いていることを確認し、プレートの台座シートが付いた面が取付穴側になるように取付穴とプレートの位置を合わせて取付台に置きます。
- ④ 水栓本体底部に台座シートが付いていることを確認し、水栓本体が正面を向くように取付穴に差込みます。  
\*台座シートに剥離紙が付いている場合は剥がしてから取付穴に差込んでください。  
\*「後側」シールが貼付けられている場合は、そちら側を真後ろにします。  
\*水栓取付位置がシンク・洗面手洗器中央でない場合は、吐水口位置・回転角度に合わせて位置を決めてください。



- ⑤ 支持金具に固定金具・ワッシャを順に通します。
- 必ず実行** 部品の順序に注意し、正しい順序で取付けてください。
- ⑥ 締付金具を仮締めし、取付位置を調節してから、締付金具を「立水栓取付工具」などでしっかりと締付け、水栓本体を確実に固定します。
- 必ず実行** ●締付金具は、締付けすぎないでください。固定金具が変形するまで締付けると固定力がなくなります。  
●締付金具の締付けには、適切な工具をご使用ください。締付時に、工具が給水・給湯ホースを損傷し、漏水の原因となる場合があります。
- 禁止** 水栓本体を固定する際は、レバーハンドル部を持って締付けしないでください。カートリッジに無理な力が掛かり破損する恐れがあります。



- ⑦ 図を参考に、取付状態を確認します。  
\*台座シートが取付台に全周接するように取付けてください。  
\*固定金具が確実に取付台に掛かるように取付けてください。

- 必ず実行** ●水栓本体を固定した後に、位置を調節しないでください。無理な力が掛かり、器具の破損やゆるみの原因となります。  
●水栓本体が取付穴の中心にくるように固定してください。偏って取付けると、確実に固定されない恐れがあります。
- 注意** ●水栓本体が正しく固定されていないと、ガタつきや取付台下のキャビネット・流し台内への漏水、部品損傷の原因となりますのでご注意ください。  
●台座シートが取付台に接していない箇所があると、取付台下のキャビネット・流し台内へ漏水を起こし、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。

2. ジョイント金具を取付けます。

- ①給水・給湯ホース先端の保護キャップを外し、Oリングに傷がないか確認します。  
②給水・給湯ホースをジョイント金具にしっかりと差込みます。  
**必ず実行** 給水・給湯ホースをジョイント金具に差込む際は、Oリングを傷付けないように、垂直にゆっくりと差込んでください。
- ③給水・給湯ホースがジョイント金具に正しく差込まれているか確認します。  
**両ツバ部を合わせる**
- ④クリップの溝に、両ツバ部(給水・給湯ホース側とジョイント金具側)が収まるようにクリップをはめ込みます。  
⑤キャップをクリップに取付けます。  
**必ず実行** クリップで手を切る恐れがありますので、固定後は必ずキャップを取付けてください。
- ⑥給水・給湯ホースを持ち、ジョイント金具を引っ張って抜けないことを確認します。  
**注意** 取付けが確実でない場合、漏水する恐れがありますのでご注意ください。

**必ず実行** Oリングにゴミや傷が付かないよう注意する

垂直に奥まで差込む

ジョイント金具

クリップの溝に両ツバ部をはめ込む

溝

④クリップ

⑤キャップ

抜けないか確認する

●クリップが正しい位置に取付けられていないと通水時に給水・給湯ホースが抜け、漏水を起こす恐れがあります。図を参考に、確実に取付けられているかご確認ください。

**必ず実行**

正しい取付状態

ななめになっている

両ツバ部がはまっていない

●給水・給湯ホースの曲げ半径は、60ミリ以上確保してください。急激に曲げると、ホースがつぶれて通水経路を狭め、十分な吐水量を得られない場合があります。

曲げ半径 60ミリ以上

**禁止** 給水・給湯ホースは根元から急激に曲げないでください。ホースに傷が付き、強度が失われたり、ホースがつぶれて通水経路が狭まり十分な吐水量を得られない場合があります。また、漏水を起こす恐れがあります。

**注意** 給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

3. 止水栓と接続します。

ジョイント金具

パッキン

\*入れ忘れ注意

ナット

ブレードフレキ

ナット

パッキン

\*入れ忘れ注意

止水栓

パッキンをブレードフレキのナットにはめ込み、ジョイント金具・止水栓にしっかりと締付けて固定します。  
\*パッキンとブレードフレキは別売です。

**禁止** フレキパイプは使用しないでください。

**注意** パッキンの入れ忘れにご注意ください。漏水の原因となります。

4. 吐水口を取付けます。

\*吐水口・ナットの形状は品番により異なります。

吐水口の根元がOリングの場合

- ①吐水口のナット部の白キャップを取外します。
- ②上記のように吐水口を水栓本体に差込み、ナットを締付けます。

**必ず実行** 吐水口を水栓本体に挿入する際は、Oリングに傷が付かないように、ゆっくりと真っ直ぐに差込んでください。

Oリングが正しく挿入されていない場合、漏水する恐れがあります。下記を参考にOリングをしっかりと挿入してください。

**注意**

- ①Oリングが逃げないように樹脂リング(図の■部)を手で押さえながら、樹脂リングがネジに当たるまでゆっくりと差込んでください。
- ②Oリングがはみ出さず、樹脂リングが全周しっかりとネジに接していることをご確認ください。

\*Oリングがはみ出している場合は再度差込み直してください。

吐水口の根元がUパッキンの場合

- ①吐水口のナット部の白キャップとUパッキンを取外し、Uパッキンを溝のある側を水栓本体側にして水栓本体にはめ込みます。
- ②吐水口を水栓本体に差込み、ナットを締付けます。

**注意** Uパッキンの挿入方向を誤ったり、傷を付けたらした場合、漏水や回転不良の原因となります。ご注意ください。

5. 化粧フタを取付けます。

- ①化粧フタ本体から、蝶ナット・ワッシャ・パッキンを取外してから、両面テープの保護シートを剥がします。
- ②プレートの水栓本体を取付けた穴と反対側に化粧フタ本体を差込みます。
- ③パッキン・ワッシャの順にネジ部に通し、蝶ナットでしっかりと締付けて固定します。

\*付属の化粧フタの代わりに別途、ソーブディスペンサー(205-923)や分水専用水栓(728-303)を取付けることもできます。取付ける場合は器具の説明書をご参照ください。

施工後の確認

- ①止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないか確認します。漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉じ、漏水する箇所を施工し直してください。
- ②ハンドルを操作して、湯水の混合具合を確認します。低温または高温しか出ない場合は、**こんな時には…** 簡単な点検と対処 を参考に調節してください。

使用方法

ハンドルの操作方法

吐水・止水	湯・水

ハンドルを傾けると「吐水」、立てると「止水」します。

ハンドルを傾けた状態で奥にまわすと「湯」、手前にまわすと「水」が出ます。

- 必ず実行**
- 湯をご使用時は最初は必ず水から出してください。その後ゆっくり湯側へ開き、お好みの温度に調節してください。ハンドルを湯側から先に開くと高温の湯が出てやけどをする恐れがあります。
  - ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉じると配管に衝撃が加わり、配管から漏水を起こし、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

**注意** ハンドルを操作する際は、ハンドルと水栓本体の間に手指等をはさまないようにご注意ください。

# 使用方法(つづき)

## スワンムーブシャワーの使用方法(スワンムーブシャワー付きの場合)

**引出す**

下へ引出す  
ロック解除ボタン  
パイプ  
ボタンを押しながら  
切替シャワー

切替シャワー後ろ側のロック解除ボタンを押しながら、切替シャワーをパイプから下へ引出します。

**注意** シャワーホースは強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。折れたり破損したりする恐れがあります。

**固定する**

①シャワーホースをパイプの根元から収納します。

切替シャワー  
シャワーホースをパイプの根元から収納する

②パイプの先端を手で支えながら、切替シャワーの向きをあわせて、パイプ先端のホルダーに「カチッ」と音がするまでまっすぐはめ込みます。

カチッ!  
ホルダー  
ボタン側を本体へ向ける  
パイプの先端のホルダーにまっすぐはめ込む

**ストレート・シャワーの切替え**

切替部  
ストレート吐水  
シャワー

切替部を反時計回りにまわすと「ストレート吐水」が出ます。切替部を時計回りにまわすと「シャワー」になります。

# 凍結防止方法

## 一般地でご使用の場合

水栓周囲の温度が0°C以下になり凍結の恐れがある場合は、下記の方法で凍結を予防できる場合があります。

少量出しておく

- 配管を保温する。
- 水栓から水を少量出しておく。(目安:1分間に200ml程度)
- 外気が入らないよう窓等を閉める。

\*凍結により破損した場合は、保証期間内でも無償修理の対象外となります。

## 寒冷地でご使用の場合

凍結の恐れがある場合は、使用後に下記の方法で水抜きをしてください。

- ①配管の水抜き栓を操作して、水が出ないようにします。
- ②ハンドルを中央位置で傾け、吐水状態にします。
- ③ハンドルを湯側・水側の順に、それぞれ全開にして水を抜きます。

\*水栓に解氷機は絶対に使用しないでください。

**注意** 水抜きの際は、水栓本体等が熱くなっていたり、高温の湯が出てくる恐れがありますのでご注意ください。やけどの恐れがあります。

# お手入れ方法

## 泡沫内芯のお掃除

切替シャワー  
泡沫内芯  
シャワーフェイス  
泡沫内芯  
コインなど

ご使用開始時に比べて著しく水の出が悪くなった場合は、吐水口先端の泡沫内芯を取外し、ゴミなどの異物を水洗いして取除いてください。

# お手入れ方法(つづき)

## 器具のお手入れ いつまでも美しくご使用いただくために。

クレンザー  
酸性洗剤  
金属たわし  
ベンジン

- 水栓器具の金属部  
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいでください。
- 水栓器具の樹脂部・塗装面  
乾いたやわらかい布でお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いたやわらかい布で水気を拭き取ってください。

**注意** 金属たわし、クレンザー・みがき粉等粒子の粗い洗剤、酸性・アルカリ性・塩素系洗剤、ベンジン、油やアルコール等は、本品を傷めますので使用しないでください。

# カートリッジの交換方法

## 準備するもの

30ミリ以上  
35ミリ以下  
24ミリ  
ソケット(対辺24ミリ)

\*左記に加えて、  
●マイナスドライバーをご準備ください。

## 交換方法

作業前に、必ず止水栓または元栓を閉じて止水してください。

カバーキャップ  
ハンドル  
六角レンチ 約2回転

①ハンドルを開き、カバーキャップ切欠部に「マイナスドライバー」などを差込んで開きます。

②「六角レンチ(対辺2.5ミリ・同梱)」で六角ビスを2回転ほどまわしてゆるめます。

軸  
軸を手前に戻す(正面図)

③ハンドルを斜め下方向に抜取ります。

④軸を手で中央に戻します。

カートリッジカバー  
内側

⑤カートリッジカバー内側に「マイナスドライバー」などを引掛けて、少し浮かせてから抜取ります。

ソケット(対辺24ミリ)

⑥「ソケット(対辺24ミリ)」で、締付ナットを反時計回りにゆるめて、古いカートリッジと一緒に締付ナットを取外します。

水栓本体側  
新しいカートリッジ  
凹部  
インサート  
ベースパッキン  
Oリング  
凸部

⑦新しいカートリッジの底にベースパッキンが付いていることを確認後、カートリッジ底の凸部が水栓本体の凹部に合うように差込みます。

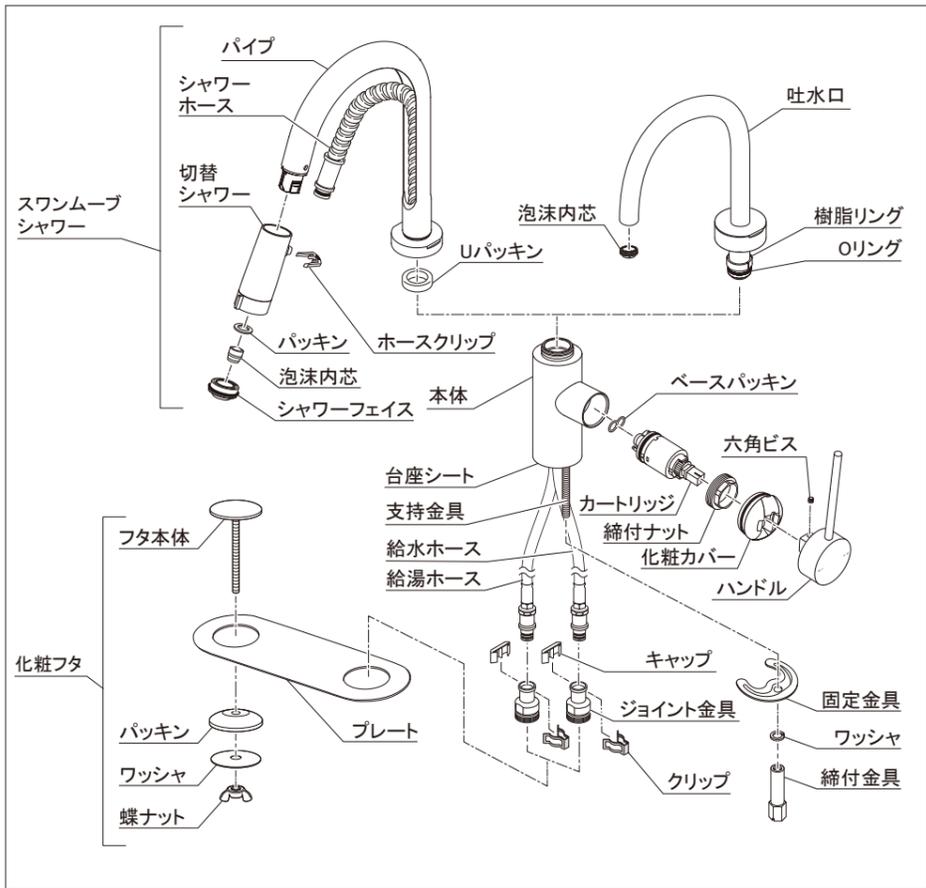
⑧①～⑥の逆の手順で組直します。

**注意** 取付けの際に、Oリングを傷つけないようご注意ください。

**注意** ●カートリッジ底にベースパッキンが付いていることをご確認ください。  
●カートリッジ底の凸部を水栓本体の凹部に合わせてください。  
●締付ナットは適度な力で締付けてください。(締付けすぎるとハンドルが操作しづらくなります。)

作業後は、必ず止水栓または元栓を開いて通水し、漏水がないことをご確認ください。

# 分解図



\* 品番によっては、図と製品の形状が一部異なります。  
 \* 製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

## こんな時には… 簡単な点検と対処

機能が正常に働かない時は、修理を依頼される前に、**分解図**を参考に下記の要領で点検してください。

現象	原因	対処	
温度調整不良	高温しか出ない	水側の止水栓が閉じている 給水圧より給湯圧の方が高い	水側の止水栓を調節する 止水栓を調節する
	低温しか出ない	湯側の止水栓が閉じている 給湯圧より給水圧の方が高い 給湯機の能力(給湯機の異常)	湯側の止水栓を調節する 水側の止水栓を調節する 別紙「安全上のご注意」の <b>使用条件</b> をご参照ください。
吐水不良	吐水量が少ない	止水栓の閉じすぎ 泡沫内芯の目詰まり	止水栓を調節する 泡沫内芯を掃除する
	全く吐水しない	止水栓または元栓が閉じている	適正水量になるまで止水栓または元栓を開く
止水不良	止水できない	カートリッジの異常	カートリッジを交換する
	ハンドル根元から漏水	締付ナットのゆるみ カートリッジの異常	締付ナットを締める カートリッジを交換する
	吐水口根元から漏水	UパッキンまたはOリングの異常	UパッキンまたはOリングを交換する
動作不良	ハンドルがガタつく	六角ビスのゆるみ	六角ビスを締直す
	ハンドルがかけにくい	締付ナットの締めすぎ カートリッジの異常	締付ナットを締直す カートリッジを交換する
切替シャワーの吐水が切替わらない	切替シャワーの異常	切替シャワーを交換する	

以上の点検を行っても正常に作動しない場合は、お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。

**分解禁止** 本体内蔵のカートリッジや部品等は、絶対に分解しないでください。故障の原因となります。

## 修理を依頼される前に

000-000 ← 品番  
 \* \* \* \*  
 お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせいただく際、水栓本体にシールが貼付けられている場合は、そちらで品番をご確認ください。



本社 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-4 ☎(06)6538-1124

東京 ☎(03)3552-0981 名古屋 ☎(052)504-1551 大阪 ☎(06)6730-3391 福岡 ☎(092)611-4611  
 広島 ☎(082)278-2821 札幌 ☎(011)704-1511 仙台 ☎(022)239-8371

0223GF

M-A9873

無断転載・複写を禁ず